

1771年八重山津波の波源

Source of the 1771 Yaeyama tsunami

*岡村 行信¹、西澤 あずさ²、藤井 雄士郎³

*Yukinobu Okamura¹, Azusa Nishizawa², Yushiro Fujii³

1. 国立研究開発法人産業技術総合研究所活断層・火山研究部門、2. 海上保安庁海洋情報部、3. 国立研究開発法人建築研究所国際地震工学センター

1. Research Institute of Earthquake and Volcano Geology, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, 2. Hydrographic and Oceanographic Department, Japan Coast Guard, 3. Building Research Institute, International Institute of Seismology and Earthquake Engineering

1771年八重山巨大津波は、明確なプレート間カップリングの証拠がない琉球弧の南西部で発生した。津波の発生間隔は500から1000年と推定され、その波源モデルは、プレート境界浅部の滑りあるいは上盤プレート内の活断層と地滑りなどが想定されてきたが、決着はついていない。今回、海溝沿いの地形図と反射断面を検討し、付加体が大規模に崩壊していることを見だし、そこでの地滑りが津波波源になりうる事が明らかになった。この地滑りモデルはこれまでの地質学的、地球物理学的研究とも調和的である。この大規模な付加体の崩壊は、斜め沈み込みによって生じた横ずれ断層によって付加体の変位したことによって発生したと考えられる。

キーワード：琉球弧、八重山津波、地滑り

Keywords: Ryukyu Arc, Yaeyama tsunami, landslide